第 43 回 CMS 学会

【演題名】当院臨床工学技士におけるペースメーカ植込み患者の周術期管理への参入例

① 今回の学会・研修の内容

（CMS とは、上尾中央総合病院、板橋中央総合病院、戸田中央総合病院を中心とした計 408 施設からなる国内有数の医療福祉グループです。）CMS 学会の開催目的として CMS で働く職員が、日々業務の中で感じている疑問や問題を研究発表することで、医療・介護の質向上につながります。また、CMS で働く職員が多職種間の理想的な連携について見識を深め、他病院・施設、他職種の取り組みについて見識を深めるまた、CMS で働く職員が多職種間の理想的な連携について見識を深め、他病院・施設、他職種の取り組みについて見識を深めることができるような学会となっております。

② 今回の学会に参加した感想や印象に残った発表

第 43 回 CMS 学会は久々の現地開催となりました。今回は演題発表者として参加いたしました。発表を通じて参加者の発表に対する反応を肌で感じることができました。自身の発表が伝わっているのかを確認しながら発表する良い機会となりました。他施設の発表を聞くことで、データの見せ方や論理展開の方法など参考になりました。

医療法人社団愛友会 伊奈病院 臨床工学科 神谷 龍彦 読売理工医療福祉専門学校出身

当院臨床工学技士におけるペースメーカ植込み患者の周術期管理への参入例

Ⅰ.研究目的

手術や内視鏡処置においてペースメーカ植込み患者に電気メスを用いる場合に、ペースメーカは電磁障害により誤作動を起こすことがある。当院では、周術期のペースメーカ植込み患者の対応が統一されていなかった。院内の安全性の向上や業務の効率化を目的とし、2022年度から臨床工学技士がペースメーカ患者管理への介入を行った。

Ⅱ.研究方法

ペースメーカ植込み患者に対して、電気メスを用いる手術や内視鏡処置の前後で、設定変更の必要性を検討した。設定変更は業者に依頼し、変更当日は処置前後の立ち合いを行った。必要に応じて電子カルテの記録や他部署への連絡も行った。運用開始してから対応した5件から運用状況を評価した。

Ⅲ.結果

ペースメーカ植込み患者の対応を臨床工学技士が窓口となって行うことで、電子カルテへの記載方法や連絡方法の統一を行うことができた。業務フローが簡略化でき、対応を統一することが出来た。

Ⅳ.考察

運用を開始してから入院時に外来から当科に連絡がないことがあった。この問題に対し、入院時のチェックシートの改定、運用変更の再周知を実施した。これらにより、連絡の抜けが改善され、情報伝達に関する安全性が向上した。

Ⅴ.結論

周術期におけるペースメーカ植込み患者の対応を、臨床工学技士が窓口となって行うことで、業務の効率化や安全性の向上につながった。

引用文献